お求めの薬売ります

マサキ樹

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
お求めの薬売ります

【Ｎコード】
Ｎ５４９５ＢＡ

【作者名】
マサキ樹

【あらすじ】
人間の欲は限りがないものです。そんな方々に私共はその欲にあった薬をお売りしております。お薬は用量用法を守って正しく使いましょう。

不老不死の薬売ります

白髪の男は雨の降る森の中を移動していた。
「まいったな」
雨が降るとは思っていなかった。男はあるものを捜して森の中へ入ったのだが中々見つからず、疲れて手ごろな場所へ腰を下ろして休んでいたところ、雨が降ってきたのだ。雨宿りできそうなところを捜していると、目の前に一軒の小屋を見つけた。
「ちょうどいい、助かった」
男は小屋の扉を叩き、雨が降り困っている、雨宿りをさせてほしいという事を告げた。しかし中からの反応はない。何度か扉を叩くが同じように反応はなかった。
「留守か・・・？　それとも誰も使っていない小屋か？」
男は扉をあけて中へ入る。
「当然だが暗いな、まぁ家主が戻ってきたら事情を話して許してもらおう」
「いらっしゃ～い、ふあぁぁあ」
「！？」
目の前の暗がりの中から声がした。
「本日はぁぁ、どのようなお商品をお探しでぇ～？」
そう声がきこえると小さな明かりがつけられた。

◇　◇　◇

商品？　どのような商品？　店かここは？
小屋というだけで看板らしき物はみかけなかったが？
「あ、いや、すまんが突然雨がふってきたものでしばらく雨宿りをさせてもらいたくてな」
「ああ、それはタイヘンですね、今身体を拭くものを持ってまいり

ましょう。そこの椅子にかけておまちください、」
声の主は店の奥？　へといき布をもってきた。
「どうぞ」
「あ、ああ、すまない」
とりあえず、礼をいい受け取りつつさりげなく声の主を見てみたが、左目に大きな眼帯をしている。眼帯をわざと見せているかのように髪は大雑把に左右へわけている。右目はあるのだろうか？　髪に隠れてよく見えない。気味が悪い。
「商品と言ったが、ここは何かの店なのか？」
「はい」
「では、ちと尋ねるが、この近くに薬屋があるという話しだが知らないか？私はそこに薬を買いにいく途中なのだが」
「ああ、それならここだと思いますよ。当店は薬を扱っております」
そう言われて辺りを見回すが薬らしきものはない。かわりに壁一面に箪笥がある。店員と同じように気味が悪いが案外こういう変な所にあるのかもな。
「そうか、ここが・・・もう一つ尋ねるが、不老不死の薬とか、きいたことはないか？」
「はい、あります」
「そんなものが世の中にあると思うか？」
「はい、当店でも扱っております」
当店でも扱っております？　ということはあるのか？　いや、そういって金を巻き上げるやつらは沢山いる。何度そんな奴らにあってきたか。
「だが、そういったものは高いんだろう？　なにせ不老不死、王様や権力者、金持ち連中がよく欲しがるものだからな」
「お手頃な値段だと思いますよ。そうですね、ざっとこんなもんでしょうか」
言うと声の主はソロバンをはじきこちらに見せてきた。偶然にも今の手持ちで買える値段だった。あっちはこちらの手持ちを把握して

いるのか？　そんなことはあるはずがない。
「だが、その手の薬にしては安すぎる気がするな。私が聞いた話だと城が２つ３つ買える値段がするとか」
「まさか」
「ならば何故そんなに安いのだ」
「そうですね、ただ消費期限が近いということですかね。在庫処分ということで」
在庫処分？　そんな理由で？　どうも怪しい、やはり今までと同じようにニセモノなのか。
「もちろん、偽物ではありません。ちゃんとした不老不死の薬です」

◆　◆　◆

結局、私は気味の悪い店員から薬を買った。これでもう私は命を狙われることに怯えて暮らす必要はなくなった。本当に不老不死の薬ならば、だ。
私の財産は誰にも渡さない。毎日宝石やらドレスや毎晩のようにパーティーをする妻。遊び呆けている馬鹿娘たち、好き勝手に新しい店を出してはすぐに閉店にしてしまう息子たち。あんな奴らにはわしの金、遺産は渡さん。私は好きなように生きるのだ。ハハハハハッ。

◆　◆　◆

「んっ・・・」
「ダイジョウブデスカ？」
「ん、あ、ああ、問題ない」
随分懐かしい夢をみていた。あれから私の人生は大きく変わった。妻も子供たちもあれからすぐに逝ってしまった。大きな戦争もいくつか体験したし、次々と新しく生まれてくる娯楽も堪能した、科学

技術と言うものも大きく進歩し、人類は不老不死の薬を飲む前、私が見上げていることしかできなかった遠い星々にまで進出しようとしていた。
「夢をみていたようだ」
「ユメ？」
「人が眠っている時に見る、幻というかなんというかイメージというか・・・」
「ワレワレハ、マボロシトイウモノハ、ミナイハズデス。ドコカコショウデショウカ？」
「いや、大丈夫だ」
　私は今、育った星から遠く離れ、異なる星で人々が移り住むための調査と施設の建設を行っている。私以外にはロボットたちがローテーションを組み極力大きな故障がおきないよう作業に勤めている。ここには人間はいない。そうここには人間などという生命体はいない。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n5495ba/

お求めの薬売ります

2012年1月15日00時52分発行